

1 本年度の重点目標

- ①授業改善の実践と学習習慣の確立
- ②進路意識の高揚と進路指導の充実
- ③規律ある生活態度の育成と自主性・自律性の伸長
- ④安全で安心できる場所としての学校
- ⑤組織として機能する学校づくり
- ⑥開かれた学校づくりの推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※自己評価結果… A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない
 ※自己評価、改善策の適切さ… A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である

| 評価分野 | 自己評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|---------------|---|--------|--|----------|---------|
| | | 自己評価結果 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 学習指導 | ① 学力向上の授業について | B | 今後も継続的に、学び直しを適宜取り入れ、基礎・基本を重視した分かる授業をすべく、授業改善に取り組んでいく。家庭学習の習慣化にも努める。 | A | A |
| 学校関係者評価者による意見 | 学び直しや少人数授業、分かりやすい授業を今後も継続して実践しながら、生徒の意識高揚が図れ、家庭学習の習慣化が身に付けられるような粘り強い指導をお願いしたい。 | | | | |
| 生徒指導 | ① 基本的な生活習慣の指導について | A | 容儀指導や挨拶運動等の適切な取り組みを粘り強く今後も継続する。 | A | A |
| | ② 教育相談について | A | 誰でも気軽に相談できる体制づくりをさらにおすすめる。 | A | A |
| | ③ 部活動について | B | 積極的な取り組みを働きかけ、地道な活動をととして活性化を図る。 | A | A |
| | ④ 生徒会活動について | B | 自主的な活動を促し、前年の各行事の反省点を的確に反映させ、早期に計画立案を行う。 | A | A |
| | ⑤ いじめの早期発見について | B | きめ細かい個別対応を継続するとともに、全体への働きかけや保護者への情報提供も必要に応じて行う。 | A | A |
| 学校関係者評価者による意見 | 学年や発達段階に合わせたきめ細かな指導をお願いしたい。特に1年生は不安定な時期なので、活気ある生徒を生かしながらも、多角的で適切な指導をお願いしたい。将来的にも役立つであろう、粘り強さやリーダーシップといった社会性を身につけさせ、その意識を醸成させるためにも、部活動の活性化を是非お願いしたい。 | | | | |
| 指進 | ① 進路目標の指導について | B | 今後も、担任や学年を中心にきめ細かい指導を徹底する。また、進路だよりの朝読書等での有効活用を継続し、1、2年生向けの内容も充実させる。 | A | A |
| 学校関係者評価者による意見 | 好調な進路決定状況を持続させるためにも、きめ細かい指導を継続して欲しい。早い段階での進路決定は、学習面での意欲やコミュニケーション能力向上にもつながると思うので、そのような指導を行って欲しい。 | | | | |
| 特色校 | ① 有意義な学校行事について | B | 政宗公まつりや食楽まつり等の地域貢献活動、OB等リレー講座、地域探訪や職場体験学習等の総合的学習、岩高短歌やみやぎの文学等独創的な取り組みを、よりよい方向に改善しつつ、今後も継続する。 | A | A |
| | ② 特色ある学校づくりについて | A | | A | A |
| 学校関係者評価者による意見 | 学校が地域に溶け込み、地域が学校を愛し、盛り上げ、一体となって生徒を育成することは、生徒の成長のみならず、地域活性化という点でも必要不可欠なことである。今後もこの素晴らしい取り組みを継続し、地域とともに歩む学校であって欲しい。 | | | | |
| 防災教育 | ① 災害時の避難・連絡について | A | 引き続き防災家庭用リーフレットや引き渡しカードを全家庭に郵送し、eメッセージの全員登録を実現させ、緊急時に対応できる態勢を整える。また、授業時以外の防災訓練を継続して実施し、防災意識の高揚を図る。 | A | A |
| 学校関係者評価者による意見 | 防災に関する生徒への意識づけと、非常時対応の保護者への周知など、継続的に行って欲しい。また、くり返し訓練などを行い、防災意識高揚のための指導を地道に継続していただきたい。 | | | | |
| た開か校れ | ① 学校の情報について | A | 学校新聞を毎月発行、学校発行物の全家庭への郵送、ホームページの迅速な情報更新等の取り組みを継続的に実施する。 | A | A |
| 学校関係者評価者による意見 | 情報の伝達手段を多様に実施しているのは、大変効果的である。情報発信は、HPのみならず、ブログやフェイスブック等の手法で保管できないか。 | | | | |
| 施設備設 | ① 校舎等の施設設備について | B | 生徒の安全確保のための修繕等を優先し、速やかな対応を心掛け、生徒のニーズも把握した整備計画の実現に努める。 | B | B |
| 学校関係者評価者による意見 | 現状を調査し、計画的な改修を行うべき。できるところから改善をお願いしたい。PTAの力も重要であり、保護者や地域とともにという点を伝えながら、その力をする必要ではないか。 | | | | |

3 次年度の課題と改善方策

| 次年度の課題 | 改善方策 |
|----------------------|---|
| ① 進路実現に向けた学習指導の充実 | 生徒が興味・関心を持てるような教材の工夫に努めることで、「分かる授業」の展開に結びつけ、生徒の学習習慣や学習意識の醸成につなげたい。また、早期の進路目標明確化による、学習意欲の喚起と学力向上に結びつける指導を、教務部や進路指導部、学年が連携して行う。さらに、教員相互に授業を参観・検討し研鑽を深めるとともに、他校の公開授業や校外の研修・研究会に積極的に参加する。 |
| ② 生徒指導の充実 | 生徒指導全体において、全職員共通理解のもと、学校全体として組織的に統一的な指導を実践する。特に、生徒一人一人に目を向け関わりを大切に、進路を意識した指導を積極的に取り入れ、生徒自身がより能動的に自分自身を顧みることができるよう指導を実践する。服装や心構えなど、学校全体としてのナマアツプを促進させ、地域から信頼される生徒の育成に力を入れる。 |
| ③ いじめの早期発見と教育相談体制の確立 | 将来に対する不安を取り除き、精神的な安定とより充実した学校生活は、いじめ防止に重要な役割を果たすと考え、早期の進路目標の決定を目指し、その実現のために進路指導部と生徒指導部、カウンセラーが中心となり、全職員が連携して指導にあたる。また、個別の問題に対しては、教育相談担当・養護教諭・カウンセラーが学年や担任との連携を密にし、より早期の対応を心がける。 |